

2026年6月25日(木)

台湾のデータが教えてくれる半導体株

経済調査部主席エコノミスト 藤代宏一

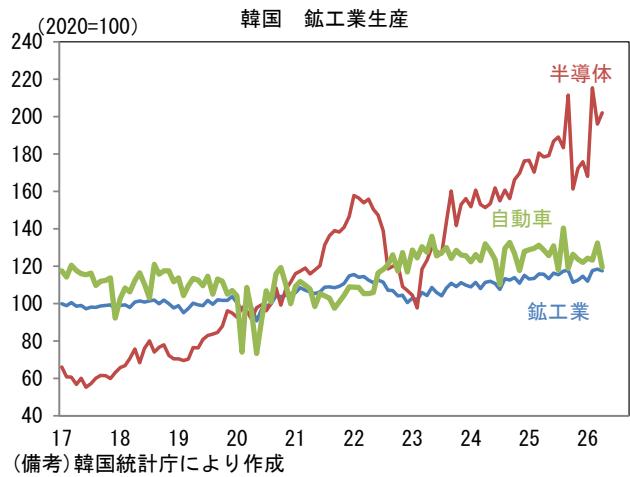
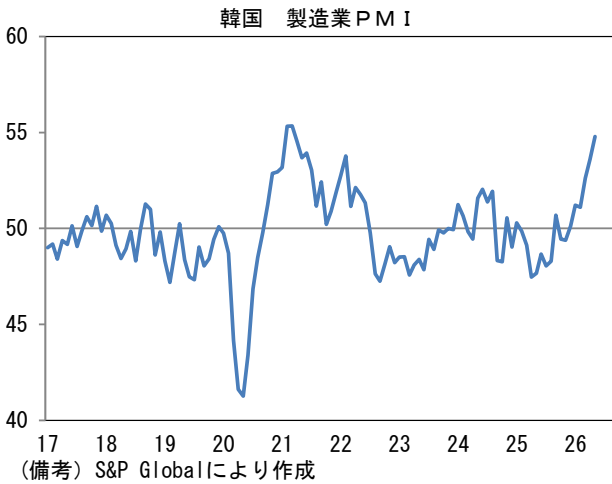
(TEL: 050-5474-6123)

- ・ 日経平均株価は先行き 12 ヶ月 66,000 円程度で推移するだろう
- ・ USD/JPY は先行き 12 ヶ月 155 円程度で推移するだろう
- ・ 日銀は政策金利を 26 年 12 月に 1.25% とした後、28 年央までに 2.0% とするだろう。
- ・ FED は FF 金利を、年内は 3.75% で据え置くだろう。

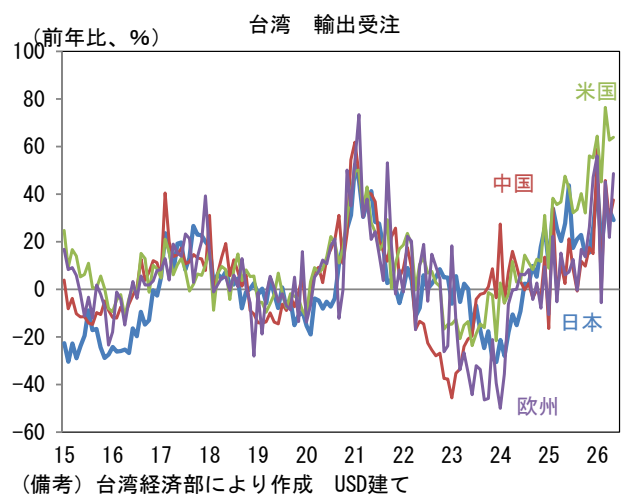
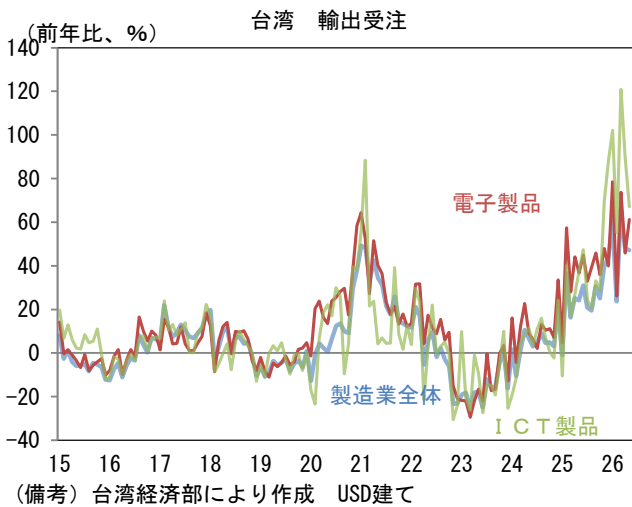
・ AI 関連需要を起点とする生産活動の拡大が広がりを見せている。日本では 6 月の製造業 PMI 速報値が 54.9 と高水準を維持した。4 - 6 月平均は 54.8 と、2025 年平均値の 49.0 を有意に上回っている。ヘッドラインを構成する 5 つの項目は、生産 (54.0 → 54.3) と新規受注 (53.2 → 54.2) がともにはっきりと 50 を上回るなか、雇用 (53.1 → 53.4) が水準を切り上げた。購買品在庫 (50.1 → 50.4) は僅かながら上昇に寄与。他方、サプライヤー納期 (62.9 → 62.2) はやや短縮化し、ヘッドラインの下押しに寄与した。ホルムズ海峡の事実上封鎖は、製造業全体で見れば、生産数量面に与えた影響は軽微だったと推察される。他方、AI・半導体関連ではメモリメーカーのみならず、半導体製造装置、化学品、非鉄金属（電線、銅箔等）、セラミックなど広範な業種で生産活動が上向いたと思われる。



- こうした状況は韓国と台湾も同様である。双方とも6月の製造業PMIはまだ公表されていないが、5月の段階で韓国は54.8と2021年3月以来の高水準、台湾は56.1と2021年8月以来の高水準を記録している。韓国の鉱工業生産統計を確認すると、自動車は緩慢な増加に留まるのをよそに、半導体が急激に伸びている。2020年のコロナ期を100とする半導体の生産水準は今や200近傍にあり、先行きもメモリ不足が深刻化するもとの増産が期待される。



- 次に台湾に目を向けると、輸出受注は5月も前年比+47.2%と非常に高い伸びを維持した。輸出受注全体の8割を占める電子製品と情報通信技術製品が、それぞれ同+61.2%、同+67.2%と強さを示した。地域別では輸出受注全体の36%（2025年実績）を占める米国向けが同+63.9%と高い伸びを維持。データセンター向けの需要とみられる。2割弱を占める中国が同+37.5%、同じく2割弱を占めるASEAN向けが同+31.6%と強く伸びた。5%を占める日本は同+29.1%であった。



- 台湾は言わずと知れた半導体の生産集積地であり、その輸出動向は半導体株の波形と一致する傾向にある。世界の主要半導体銘柄で構成されるSOX指数は6月24日時点で年初来+90.0%と驚異的上昇を記録し、過熱感が指摘されているが、台湾の輸出受注との比較ではさほど違和感はない。またSOX指数の予想PERは先行き12ヶ月で27倍であるが、2年先予想EPS（一株あたり利益）を基準にすると18倍程度に過ぎず、この尺度で見れば割高ではない。

